

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
河原アイペットワールド専門学校		平成16年3月26日		白木 俊一		〒790-0006 愛媛県松山市南堀端町6番地11 (電話) 089-935-8787																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人河原学園		昭和60年10月21日		河原 成紀		〒790-0001 愛媛県松山市一番町一丁目1番地1 (電話) 089-943-5333																															
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																													
文化・教養		文化・教養関係 専門課程		ペット総合学科		平成 29 年 3 月		—																													
学科の目的		動物愛護の精神に立ち、幅広い創造性に溢れ、動物管理の専門能力を持つとともに、人間とコンパニオンアニマル(伴侶動物)である犬が、互いに快適な生活を送るために必要な「しつけ」、動物看護基礎知識、しつけトレーニングの基礎など総合的に学習し第一戦で活躍できる人材を育成し、地域社会の発展に貢献する。																																			
認定年月日		平成 26 年 3 月 31 日																																			
修業年限		昼夜		全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技																							
2 年		昼間		1,950時間		750時間		450時間		750時間		0時間		0時間																							
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数		単位時間																									
80人		38人		0人		4人		6人		10人																											
学期制度		■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、確認テスト、提出物、授業態度、実習態度、出席率などに基つき総合的に評価する																													
長期休み		■学年始:4月1日～7月31日 ■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月20日～1月7日 ■学年末:3月1日～3月31日				卒業・進級 条件		・履修するすべての科目においてSABCIいずれかの評価を得ること ・原則として出席率90%以上であること																													
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人、保護者への電話対応及び自宅訪問を実施。遅刻が目立つ学生には保護者面談を実施。				課外活動		■課外活動の種類 ドッグランを使用しての実習 ■サークル活動: 有																													
就職等の 状況※2		■主な就職先・業界等(2023年度卒業生) ペットサロン、ペットショップ、トレーニング施設などの動物関連業界 ■就職指導内容 1年次より、動物業界理解のためのインターンシップ実習を実施し、2年次は就職を意識したインターンシップ実習を行っている。 ■卒業生数 11 人 ■就職希望者数 11 人 ■就職者数 11 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100.0 % ■その他 ・進学者数: 0人 令和3年度卒業者に関する (令和4年5月1日 時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>家庭犬トレーナー2級</td><td>③</td><td>11人</td><td>11人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄						資格・検定名	種	受験者数	合格者数	家庭犬トレーナー2級	③	11人	11人																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																		
家庭犬トレーナー2級	③	11人	11人																																		
中途退学 の現状		■中途退学者 5 名 令和5年4月1日時点において、在学者38名 (令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者33名 (令和6年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 精神的に不安定になり、登校が困難になったため。 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・遅刻欠席が続いた場合、早期に学園カウンセラーや保護者との連携を強化していく。 ・特別に対応が必要であると判断した新入生には、保護者及び高校担任からのヒアリングを実施し、学校教職員で共有する体制を構築する。				■中退率 13.2 %																															
経済的支援 制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ※特待生制度、AO入試特典、推薦特典、自己推薦特典、大学・短大・社会人特典、家族制度、再入学制度 ■専門実践教育訓練給付: (給付対象・非給付対象) ※令和5年度の給付実績者数 0 名																																			
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: (有)無																																			
当該学科の ホームページ URL		URL : www.kawahara.ac.jp/ipet/																																			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成においては、業界及び社会の変化やニーズ、在校生及び卒業生の仕上がり状況等の不断の組織的、継続的検証を行う必要がある。企業等から広く、具体的に意見を求め、高度で実践的な教育課程を編成するために、新たな授業科目の開設における連携はもちろんのこと、現存のシラバスやコマシラバスにまで落とし込める授業内容・方法の改善並びに教材開発につながる連携を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校職業実践専門課程においてより実践的かつ専門的な高度職業教育を行う観点から、企業・業界団体等より業界における人材の専門性に関する動向や求められる知識・技術等について意見を聴き、これを踏まえてカリキュラムや教育方法の改善・工夫に組織的、継続的に取り組むことを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和 6 年 4 月 1 日現在

名 前	所 属	任期	種別
森松 清美	愛媛県動物愛護センター	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日	①
関 宏孝	セキ株式会社 松山本社事業本部	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日	②
白木 俊一	河原アイペットワールド専門学校 校長		
松田 幸隆	河原アイペットワールド専門学校 教頭		
岡田 拓二	河原アイペットワールド専門学校 学科長		
馬場 遥平	河原アイペットワールド専門学校		
宮下 識生	河原アイペットワールド専門学校		

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (前期後期終了後に各期総括として開催するため11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和 5 年 11 月 16 日 17:00～18:00

第2回 令和 5 年 3 月 21 日 16:30～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ・卒業研究発表を実施。各自でテーマを決め、保護者も呼んで発表会を行った。
- ・学科の変更に伴い、1年次に販売士3級を受験、その結果をみて2級の受験を検討する。
- ・インターンシップとは別にペットショップへの実習を取り入れる。1年生を対象に後期から、ペットステップ、ペットプラザホームセンターコーナン三津浜店へ土日祝を利用し実習に行けるように調整する。
- ・動物に関わる仕事は多岐にわたるため、今までの職業に縛られず、職種を広げる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携した実習等は、1) 学生が校内における通常の実習等では得ることが難しい実践的、専門的な知識や技術等を習得する場であり、2) さらに学習してきた知識や技術の理解度、習熟度を再確認し、3) 企業等の関係者から具体的に実践的な評価を得て、学生の実務能力を多面的に開発する機会とする。また学生能力の習得のみならず、その機会を通じて、学校の実習カリキュラムがより実践的な内容になるよう努めることとする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

インターンシップ実習については、一定の評価基準を設定し企業によつての評価差が出ないよう実習評価表を整備している。また、現場でのニーズなどを具体的に講義するよう依頼している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ実習Ⅰ	企業理解のためのインターンシップ実習(1年次)	愛媛県内外の動物関連企業
インターンシップ実習Ⅱ	就職希望企業へのインターンシップ実習(2年次)	愛媛県内外の動物関連企業
アニマルセラピー演習	老人ホームに訪問し、セラピー活動を行う。 セラピー時の犬の扱い方や補助犬などについて学ぶ	アユラステーション松山、市民病院、さくら幼稚園
トレーニング特論Ⅰ	クリックを使った訓練や補助犬などの特殊な訓練方法を学ぶ	Saijo Dog School
トレーニング特論Ⅱ	屋外での訓練や補助犬などの特殊な訓練方法を学ぶ	Saijo Dog School

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

本校の教員研修の基本方針は、1) 各教員の専攻分野における実務に関する高度な専門知識・技術の修得、2) およびそれらを授業計画(カリキュラム、シラバス、コマシラバス)に落とし込む能力の修得、3) さらにその研鑽を実際の授業運営に反映させる教育力の修得を目的として、教職員研修規程第2条に定める研修を受講させることとする。同規程第3条に定めるとおり、所属長及び法人本部総務部責任者は、各教員の実務専門性や教育力の組織的で継続的な向上に努めることとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ウィベケ・リーセ氏による子犬のしつけ方セミナー」

期間: 10月24日 対象: 河原アイペットワールド専門学校教員、ドッグトレーナー・ペットビジネス学科2年生(希望者)

内容: 動物行動学から考える子犬のしつけ方の解説及び実演。広島での開催に参加。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「河原学園新人研修」

期間: 令和5年4月～8月 対象: 2023年度新入社員対象

内容: 専修学校制度、職業実践専門課程概要、第三者評価、職業教育のあり方、教育目標・科目目標の設定、シラバス・コマシラバスの作成、授業成果評価、就職サポート、自然災害発生時対応、アカハラ相談等、専門学校における教育活動全般に関する研修を実施する。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「愛媛県における愛護活動」(連携企業等: 愛媛県動物愛護センター)

期間: 6月17日 対象: 河原アイペットワールド専門学校教員、ペット総合学科2年生

内容: 愛媛県における動物愛護活動や殺処分状況の講習を受講し、愛護活動取り組みについての意見交換を実施

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「休退学防止研修会」

期間: 令和5年12月19日 対象: 河原アイペットワールド専門学校教員

内容: 休退学を防止するために河原学園の教員が集まり、講習及びグループワークを実施。実例を参考に他学校の教員との意見を交わし、発表することで意見の交換をする。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本学全般の運営（経営、教育の現状、およびそれらの短・中・長期課題や方針、社会的責務など）について、学校関係者より意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念や社会のニーズを反映する教育目的・育成人材像は明確に定められているか
(2)学校運営	学校組織は明確に位置付けられ、各部署で役割分掌がなされているか
(3)教育活動	コマシラパスには、その授業のキーポイントや授業の流れ、予復習のポイント、ポイントと関連する詳細な参考文献・資料などが具体的に記入されているか
(4)学修成果	在籍率、休退学率、出席率、資格取得率について目標は明確に数値化されているか
(5)学生支援	就職率実績の学内外の公開は、卒業年次5月1日在籍数を元に、休学者数、進学者数、卒業不可者数、無業者数などの内訳と共に示されているか
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか（講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか）など
(7)学生の受入れ募集	学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）は明示されており、公正かつ適切に学生募集及び入学者選考を行っているか
(8)財務	財務について会計監査が適正に行われているかなど
(9)法令等の遵守	学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準などの重要な法律、省令をはじめ、学則や就業規則、その他規則・規程に基づき業務が執行されているか
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

一般的な計算・漢字などの基礎学力の向上についての取り組み：補習が必要と学内教務会議で判断された学生への補習体制の強化（専任教員が学科を横断し授業を担当することで担任へのサポートができる体制に改編した）

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
鈴木 直樹		令和5年4月1日～令和6年3月31日	卒業生
染田 祥孝	松山東雲中学・高等学校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日	高校教員
西松 光保	南堀端町内会 会長	令和5年4月1日～令和6年3月31日	地域の有識者
樋口 公美	松山ほうじょう動物クリニック	令和5年4月1日～令和6年3月31日	教育課程編成委員会委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・(広報誌等の刊行物)・その他())

URL: www.kawahara.ac.jp/ipet/

公表時期: 2020年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

自己点検報告の評価を含めた外部評価委員の意見聴取に基づいて審議内容を整理し、学校運営に反映することに務め、審議内容については、公表事項を整理しすみやかに公表しなければならない。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	専修学校設置基準及び職業実践専門課程の認定要件に沿った適切な運営がなされているかなど
(2)各学科等の教育	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているかなど
(3)教職員	人事、給与に関する制度は整備されているかなど
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学校における職業教育の特色は明確になっているかなど
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか(講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか)など
(6)学生の生活支援	学生相談に関する体制は整備されているか(相談窓口が設置されているか)など
(7)学生納付金・修学支援	奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているかなど
(8)学校の財務	財務について会計監査が適正に行われているかなど
(9)学校評価	自己点検・評価結果を公開しているかなど
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: www.kawahara.ac.jp/ipet/

授業科目等の概要

(文化・教養関係専門課程 ペット総合学科) 令和5年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			しつけ理論Ⅰ	しつけと訓練の違いや犬の表現方法などを学ぶ。	1年前後期	60	4	○			○			○	
2	○			しつけ実習Ⅰ	犬の基本的な扱いやしつけ方法、トイレトレーニングやハウストレーニングなどのマナーの教え方を学ぶ。	1年前後期	60	2			○	○			○	
3	○			愛玩動物飼養管理士論	愛玩動物飼養管理士2級合格を目指す。狂犬病予防法・動愛法・鳥獣保護法・AAE・AAA・HAB・飼養管理・動物愛護を学ぶ。	1年前後期	60	4	○			○		○		
4	○			犬種学Ⅰ	それぞれの犬種の歴史や作られた目的を学ぶ。	1年前期	30	2	○			○		○		
5	○			犬学Ⅰ	犬の歴史・本能について学ぶ。	1年前期	30	2	○			○		○		
6	○			アクアリウム学	淡水と海水の違いや魚の種類、病気、水槽のお手入れ方法を学ぶ。	1年前後期	60	4	○			○		○		
7	○			スモールペット飼育学Ⅰ	猫と小動物（ウサギ・ハムスター・フェレット・モルモット・小鳥・チンチラなど）の特徴や飼育管理方法を学ぶ。	1年前後期	60	4	○			○		○		
8	○			動物健康管理学Ⅰ	健康チェック、体の仕組みと疾患、デンタルケア、感染予防、ワクチン、ノミマダニ、フィラリア、繁殖と助産、消毒、応急処置を学ぶ。	1年前後期	60	4	○			○		○		
9	○			動物福祉学	日本と海外の福祉の違いや保護施設の現状を学ぶ。	1年後期	30	2	○			○		○		
10	○			グルーミング理論	グルーミングに必要な知識を学ぶ	1年前期	30	2	○			○		○		
11	○			グルーミング実習Ⅰ	被毛の手入れ、シャンプー、ブラッシング、コーミング、爪切り、耳掃除、肛門嚢、クリッピング、ドライイングなどについて学ぶ	1年後期	90	3			○	○		○		
12	○			トレーニング特論Ⅰ	クリッカーを使った訓練や補助犬などの特殊な訓練方法を学ぶ。	1年前後期	120	4			○	○			○	○
13	○			ドッグトレーナー演習Ⅰ	家庭犬トレーナー2級の資格試験対策。	1年前後期	60	2		○		○		○		

14	○		ペットショップ学Ⅰ	ペットショップにおける販売について	1 年前 後期	60	2		○		○		○				
15	○		コンピューター実習Ⅰ	ワードの基本技術を習得する	1 年前 後期	60	2			○	○				○		
16	○		就職実務Ⅰ	面接指導やナチュラルメイクやスーツの着こなしなど就職活動に必要な準備を行う。	1 年 通 年	60	4	○			○		○	○			
17	○		インターンシップ実習Ⅰ	企業理解のための指定動物企業へのインターンシップ実習	1 年 後 期	30	1			○		○		○	○		
18	○		犬種学Ⅱ	犬種についてより詳しく学ぶ。また、自分でも犬種について調べ、発表することで説明する力、まとめる力をつける。	2 年 後 期	60	2	○			○		○				
19	○		犬学Ⅱ	ドッグショーの仕組みについて学び、犬の業界への認識を深める。	2 年 後 期	60	2	○			○		○				
20	○		動物健康管理学Ⅱ	健康チェック、体の仕組みと疾患、デンタルケア、感染予防、ワクチン、ノミマダニ、フィラリア、繁殖と助産、消毒、応急処置を学ぶ。	2 年 前 後 期	60	4	○			○		○				
21	○		トレーニング特論Ⅱ	屋外での訓練や補助犬などの特殊な訓練方法を学ぶ。	2 年 前 後 期	120	4			○	○				○	○	
21	○		グルーミング実習Ⅱ	被毛の手入れ、シャンプー、ブラッシング、コーミング、爪切り、耳掃除、肛門嚢、クリッピング、ドライイングなどについて学ぶ	2 年 前 期	90	3			○	○		○				
22	○		ドッグトレーナー演習Ⅱ	家庭犬トレーナー2級の資格試験対策。	2 年 前 後 期	60	2		○		○		○				
23	○		アニマルセラピー演習	老人ホームに訪問し、セラピー活動を行う。セラピー時の犬の扱い方や補助犬などについて学ぶ。	2 年 前 後 期	90	3		○		○	○	○			○	
24	○		コンピューター実習Ⅱ	エクセルの基本技術を習得する	2 年 前 期	30	1			○	○				○		
25	○		インターンシップ実習Ⅱ	就職希望企業へのインターンシップ実習	2 年 前 期	30	1			○		○		○	○		
26	○		就職実務Ⅱ	面接指導など就職活動に必要な準備を行う	2 年 前 期	30	2	○			○		○				
27		○	しつけ実習Ⅱ	しつけ実習Ⅰの応用やしつけの強化方法を学ぶ。	2 年 前 後 期	60	2			○	○				○		
28		○	しつけ実習Ⅲ	相手に伝える技法やイベントを企画し、お客様対応の力をつける。	2 年 前 後 期	60	2			○	○				○		

29		○	しつけ演習	JKCの規定科目の訓練方法としつけ教室での飼い主さんの対応を学ぶ。	2 年 前 後 期	60	2			○	○		○		
30		○	ペットショップ学Ⅱ	ペットショップ学Ⅰで学んだ事の応用。	2 年 前 後 期	60	2		○		○		○		
31		○	スモールペット飼育学Ⅱ	1年次に学んだ猫、小動物について更に深く学ぶ。	2 年 前 後 期	60	4	○			○		○		
32		○	アクアリウム演習	AQUA学で学んだ内容を基に、魚の飼育、モーターのメンテナンスや水槽のお手入れなどの方法を学ぶ。	2 年 前 後 期	60	2		○		○		○		
33		○	水族館学	水族館の概論、生物の分類、餌、運用や展示について学ぶ。	2 年 前 後 期	60	2	○			○		○		
34		○	水生生物飼育学	海水魚の飼育や海水魚の種類、器具、水槽の手入れの方法を学び、実習も行う。	2 年 前 後 期	60	2	○			○	○	○		
35		○	潜水土学	ダイビングのライセンス取得と国家資格の潜水土の資格試験対策。	2 年 前 後 期	60	2	○		○	○	○		○	
合計				35科目	1950時間（89単位）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
・履修するすべての科目において、S・A・B・Cいずれかの評価を得ること ・原則として出席率90%以上であること		1学年の学期区分	前後期
		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。